

1920 年代中国社会における「新婦女」

—『婦女雜誌』を主なテキストとして—

何 瑋

論文要約：

本研究は、中国大陸、台湾、日本において 1920 年代の中国社会の「新婦女」研究が非常に乏しいなか、「通俗的な男性知識人」がいかに「新婦女」言説を構築していたかをジェンダー視点で分析するものである。テキストとしては、当時のメジャーな雑誌である『婦女雜誌』を主に利用する。

総じていえば、「新婦女」たちが就学の目的や身体表現において、多様な理解と実践をしていたことは、『婦女雜誌』の彼女たちの声から散見される。しかし、男性知識人は、彼女たちが近代学校教育を「結婚のための恰好の手段」とみなし、また西洋から渡来した様々なファッションに耽溺し、派手に着飾ることに夢中になっているという批判的な言説で、画一的な「新婦女」像を造形した。

その一方で、男性知識人は「新婦女」に強い意味付与も行なった。彼女たちはファッションに追随するなど社会の不良な風儀を矯正する役割を果たすべき存在であり、また女性を規範化してきた在来中国社会における儒教文化と断絶すべき新しい存在であり、更には女性グループの中において、知的代表として「婦女解放運動」の指導的な立場に立つべき存在でもあったのである。

本研究を通して、「新婦女」を取り巻く規範のありようや、これまで等閑視されてきた中国近代の位相の一局面も浮上してくるだろう。